

## 鉄道ホビートレイン車内に展示している鉄道模型のリニューアルについて

平成28年3月14日

平成26年3月15日から予土線宇和島駅～窪川駅間で、0系新幹線の外観を模した「鉄道ホビートレイン」を運行し、多くのお客様にご利用・ご好評をいただいております。

このたび、3月中旬に行います定期検査に合わせまして、車内に展示してあります鉄道模型のリニューアルを下記のとおり実施いたします。

なお、3月18日（金）宇和島駅15時37分発の窪川行から、リニューアルしました鉄道模型の展示をご覧いただけます。

### 記

#### 〔1〕 鉄道ホビートレインの鉄道模型のリニューアル内容

##### 1 半円筒状のショーケース

- ① コンセプト 「新幹線エリア」として、過去～現在の新幹線の先頭車に加え、「鉄道ホビートレイン」を展示
- ② 内 容 変更なし

##### 2 大型のショーケース

- ① コンセプト 「企画展示コーナー」として、定期的に展示内容を更新
- ② 内 容 「四国に向かう列車」に代えて、「特別な列車」を展示
- ③ 詳 細 特急「つばめ」のイメージ  
サロンエクスプレス東京のイメージ  
トワイライトエクスプレスのイメージ  
アイランドエクスプレス四国のイメージ  
伊予灘ものがたりのイメージ  
「サンライズ瀬戸」のイメージ

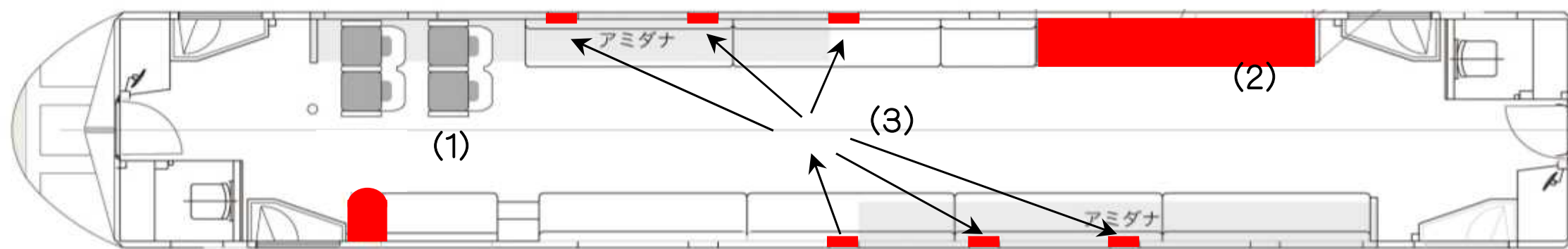
##### 3 窓間の小型ショーケース

- ① コンセプト 四国にちなんだ車両（Nゲージ）を展示
- ② 内 容 変更なし

#### 〔2〕 宇和島駅のショーケース

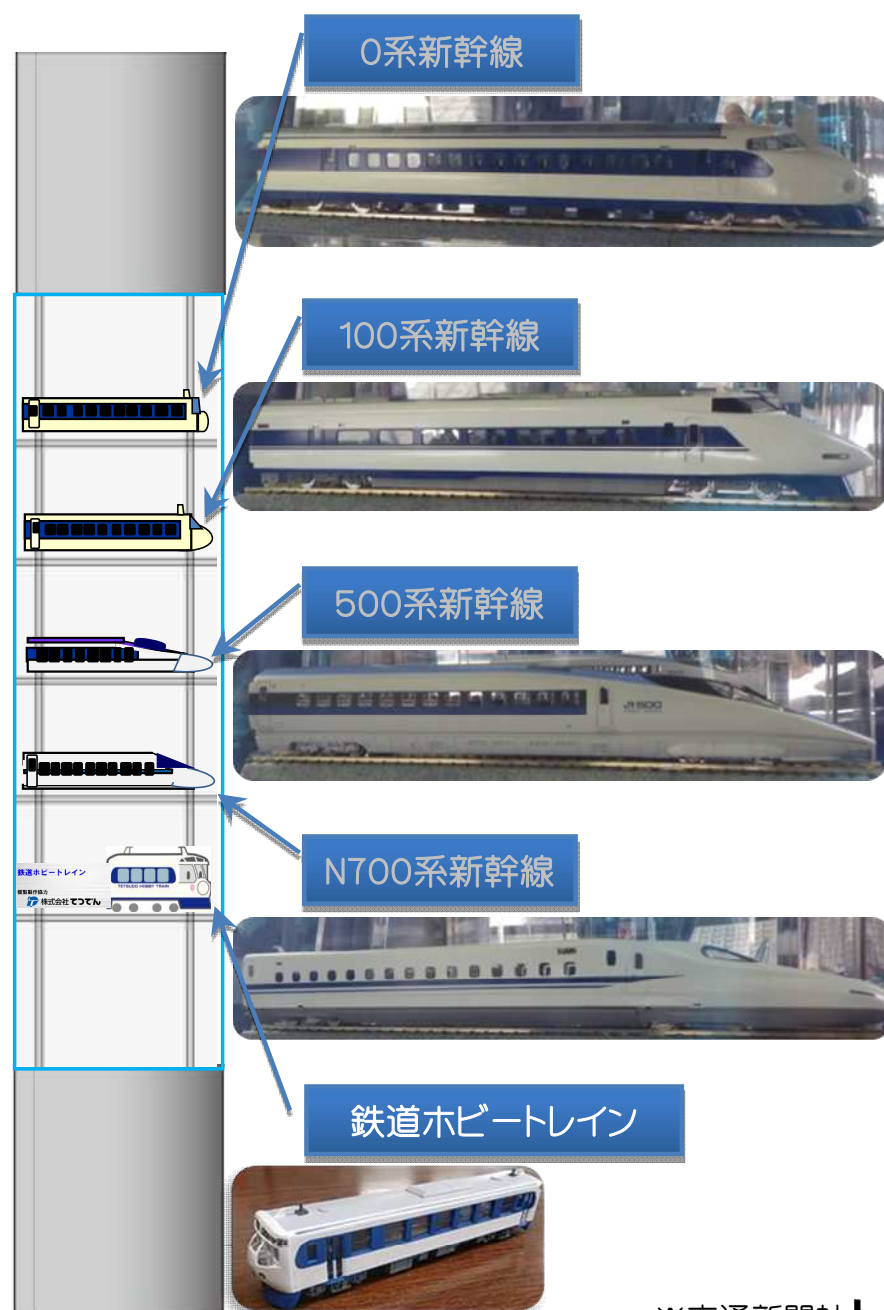
- ① コンセプト 鉄道ホビートレインの大型ショーケースに展示していた模型を主に「四国に縁のある列車」を中心に展示
- ② 内 容 変更なし

## ●鉄道模型の解説



### (1)半円筒状のショーケース

「新幹線エリア」として、過去～現在の新幹線の先頭車に加え、「鉄道ホビートレイン」を展示しています。(今回は、変更ありません)



**昭和39年10月1日**、東京～新大阪間を結ぶ東海道新幹線「夢の超特急」としてデビューし、最高速度210km/hの高速鉄道として東京オリンピック開催の10日前に営業運転を開始しました。車体前面形状は空気抵抗を減らすための丸みを帯びた航空機のような流線形スタイル、車体塗色はアイボリーホワイトとブルーの爽やかなツートンカラーを採用しています。開業当初は30本360両でしたが、昭和61年登場の38次車まで計3,216両が製造され、長期間に渡って東海道・山陽新幹線の顔として活躍しました。当初は「0系」という系列称号はなく「新幹線旅客電車」でしたが、昭和55年に東北・上越新幹線用の車両(200系)が登場することになり、系列を分類する必要が生じたため、新幹線の原点・すべての始まりを意味する数字の0を付けて「0系」となりました。

**昭和60年10月1日**、0系の後継車両として登場し、2階建てのグリーン車と食堂車を連結し、さらにグリーン車個室も設置されました。0系と比べシャープな先頭部分が外観の特徴で、普通車の3人掛け座席も回転できるようになっています。その後、JR東海は食堂車の代わりに1階にカフェテリアを設置したG編成、JR西日本は2階建ての食堂車とグリーン車を4両連結したV編成を増備し、東京～博多駅間の速達型「ひかり」等を中心に活躍しました。しかし、新世代の300系が登場・増備されると、最高運転速度240km/hの100系は速達列車から離脱し、最後は、2階建て車両を外した4両編成と6両編成に組み替えられ、山陽区間の「こだま」用として運用されました。

**平成9年3月22日**、新大阪～博多駅間を最高運転速度300km/h、2時間17分で結ぶ「のぞみ」でデビューし、同年11月29日からは東京～博多駅間を4時間49分で結ぶ「のぞみ」として運用されました。当時の世界最高速度300km/hを目指して開発され、空気抵抗を減らすためにジェット戦闘機のような15mのロングノーズ先頭スタイルおよび円筒形の車体を採用しました。東海道区間でスピードアップできるN700系の増備により、16両編成の車両は8両編成に組み替えが行なわれ、新大阪～博多駅間の「こだま」用として運用されています。

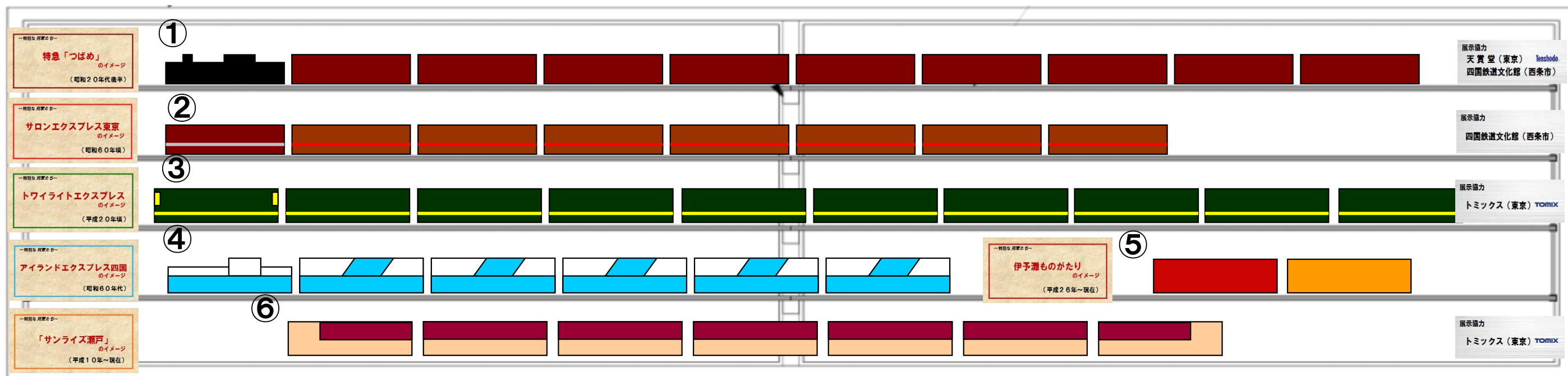
**平成19年7月1日**から東京～博多駅間の「のぞみ」で営業運転を開始しました。255km/hに減速する必要があった急カーブでも270km/hで走行できる最大傾斜角1度の「車体傾斜装置」を装備し、最高運転速度が東海道区間で270km/h、山陽区間では500系と同じ300km/hとなり、東京～博多駅間を最速4時間55分で結ぶことができるようになりました。騒音対策としてエアロ・ダブルウィング形の先頭形状や車両連結部の全周幌、低騒音床の採用など、車内外の騒音を減少した環境にもやさしい車両となっています。

**平成26年3月15日**から、予土線で運転を開始しました、今、皆様にご乗車を頂いています「鉄道ホビートレイン」の模型を展示いたします。(模型製作協力、株式会社「てつでん」)

※交通新聞社トレたび より一部転載。

## (2)大型のショーケース

第3回目の企画展示として、「特別な列車たち」をお楽しみ下さい。



### 特別な列車たちについて

鉄道は多くのお客様を目的地まで運ぶためだけではなく、過去から現在まで、お客様の多様なニーズを満たすために様々な仕様の列車が運行されてきました。

鉄道ホビートレインでは、「特別な列車たち」と称して、これらの列車をイメージした鉄道模型を展示いたします。

#### ①特急「つばめ」

昭和25年、東京～大阪間の特急「へいわ」を改称した特急「つばめ」は、最後部にマイテ39形一等展望車を連結し、当時の日本を代表する列車でした。東京～大阪間の所要時間は8時間を要しており、車内サービスに「つばめガール」と呼ばれる女性乗務員を乗務させていました。

展示模型は、昭和20年代後半、特急「つばめ」の最盛期の姿をイメージしています。

#### ②サロンエクスプレス東京

昭和58年に14系客車を改造して作られた、団体列車用の欧風客車「サロンエクスプレス東京」は、パノラマラウンジやコンパートメント客室などを取り入れ、その後ジョイフルトレインと呼ばれた斬新な車両です。多くの団体列車やイベント列車として活躍した後、平成9年にお座敷客車「ゆとり」への再改造を経て、平成20年に引退しました。

展示模型は、EF58機関車が牽引する、サロンエクスプレス東京をイメージしています。

#### ③トワイライトエクスプレス

平成元年に登場した「トワイライトエクスプレス」は、国内最高レベルの豪華列車として、大阪～札幌間約1,500kmを結ぶ寝台特急列車でした。最上級クラスの「スイート」は、多くの方の憧れの列車でもありましたが、昨年3月で運行を終了しました。

展示模型は、平成10年代にリニューアルされた後の、トワイライトエクスプレスの姿をイメージしています。

#### ④アイランドエクスプレス四国

昭和62年、国鉄民営化と同時に登場した、四国で初めての本格的なイベント専用列車で、50系客車から改造されました。編成両端はオープンタイプの展望デッキが設置されています。

四国内外への団体列車、イベント列車として活躍しましたが、平成11年に引退、後継車としてキハ185系気動車改造の「アイランドエクスプレス四国Ⅱ」が現在運行されています。

展示模型は、登場直後のアイランドエクスプレス四国の姿をイメージしています。

#### ⑤伊予灘ものがたり

平成26年に登場した「伊予灘ものがたり」は、本格的な観光列車として松山～伊予大洲・八幡浜で運行されています。

コンセプトはレトロモダンで、伊予灘をはじめとした美しい景観、アテンダントや地元住民によるおもてなし、地元食材を使用した供食サービスなどが楽しめるようになっています。

展示模型は、現在運行されている伊予灘ものがたりの姿をイメージしています。

#### ⑥サンライズ瀬戸

東京～高松間の寝台特急として運行されていた「瀬戸」は、平成10年、285系電車に変更され「サンライズ瀬戸」となり、同時に、東京～岡山間を「サンライズ出雲」と併結運転となり、現在に至っています。

平成25年からは多客時期を中心に高松・琴平間延長運転されています。

展示模型は、現在の寝台特急「サンライズ瀬戸」のイメージです。

①、②の展示車両は、西条市が所蔵する「増田コレクション」を特別にお借りして展示するものです。

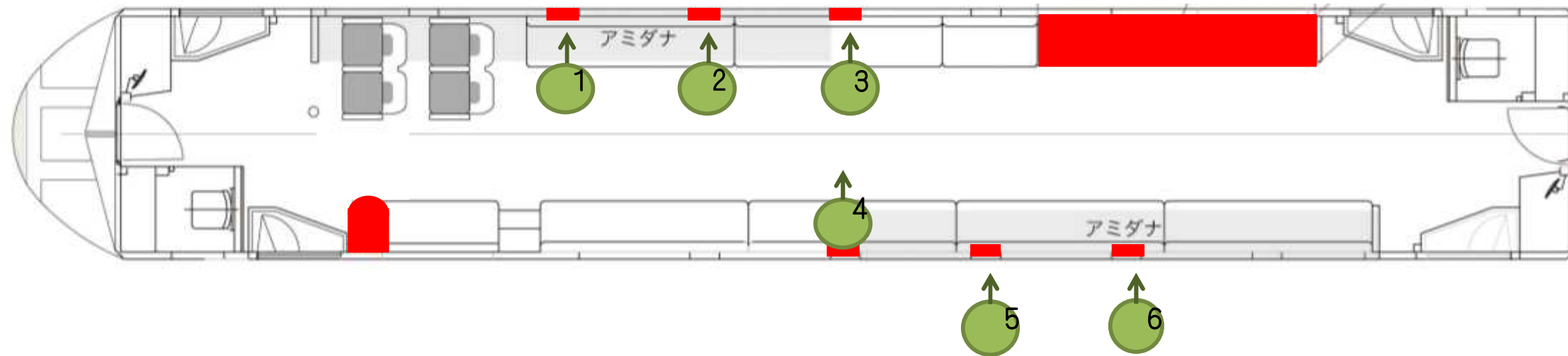
※増田コレクションとは

日本ナショナルトラストの元理事で、西条記念館南館設置に多大なご尽力を頂いた、故増田浩三氏のコレクション。ご自身も相当な鉄道ファンで、膨大な国鉄時代の資料や鉄道模型のコレクターであり、コレクション全て西条に持って来たものです。



(3) 窓間の小型ショーケース

四国にちなんだ車両(Nゲージ)を展示(今回は、変更ありません)



(各ショーケースの解説)

番号	段	形式名
1	上段	8000系(リニューアル)先頭
	下段	8000系(リニューアル)中間
2	上段	キクハ32
	下段	キハ185
3	上段	N2000先頭
	下段	N2000中間
4	上段	113系先頭(黄色)
	下段	113系中間(黄色)
5	上段	キハ181
	下段	キハ180
6	上段	2000系先頭
	下段	2000系中間

